

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『日本一あたたかい家庭を』を念頭におき、利用者本位の理念をつくりあげている。	○	利用者にも分りやすいように文字の大きさを拡大して、見やすい所3ヶ所に掲示している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や朝の申し送り時などで運営理念に触れるような話し合いを行い、理念を共有し、常に念頭におきながら業務についている。	○	理念を念頭に置き、日々の生活の中で実践していくように今後も努めたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関入口やホールに理念を掲示し、面会時や見学時に家族や来客などに説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と話したり、花、野菜などを頂いたり、散歩時なども声をかけていただいたり、保育園児がホームに散歩時立ち寄りてもらえ利用者が大変喜ばれている。また夏祭りなどの呼びかけで地域の方々も参加していただいている。	○	今後とも積極的に地域の方々とは交流していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人々や保育園児との交流はあるが、自治会などの出席は行っていない。	○	地域に働きかけて交流の機会を持つようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	今後深めて取り組んでいくようにする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	個々のサービス・家族・地域との関わりの見直し等を再認識している。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	当ホームの運営についていただいた意見を参考に、具体化を図りサービス向上に取り組んでいく。次年度は、定期的に開催出来る様に事前の打ち合わせをしっかりと行いたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	成年後見制度に関するパンフレット等を準備し、いつでも家族に渡せるようにしている。その時説明できるように勉強していく。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	職員間の連携を図り、利用者の方々が安心して生活できるように取り組む。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、書類で確認しながら時間をかけてしっかり説明を行い、ご理解の上で署名、捺印を頂いている。	○	退所時には、ご家族、利用者の暮らしに協力機関との連携が図れ安心して頂けるように支援している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	宮崎市の介護相談員が月1回の訪問時に利用者とはゆっくり話したり、相談にのってもらえる時間がある。	○	日々生活の中での満足度、心配等第三者を介して聞いた事実を受け止めケアに努めている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時や電話などで体調などについても逐一報告を行い、個々に合わせた対応をしている。利用料の支払時には、預かり金のチェックもしていただく。	○	預かり金残高確認(サインまたは押印)を頂き、金銭管理には、しっかりした信頼関係を気付くように今後も取り組む。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口として管理者が担当になっており、玄関入り口にご意見箱を設置している。	○	面会時や電話で気軽に話せる雰囲気作りに努め、状態を報告するなど信頼関係作りに更に取り組む姿勢を大事にする。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日の申し送り時に、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制は決まっているが、随時利用者の状況にあわせた組み替えを行っている。また個々の職員に負担がいかないように話し合い調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しく勤務する職員においては、なるべく触れ合う機会を多く持つようにして、早く馴染みとなるようにしている。	○	利用者の情報を全職員で周知させ対応できるようにしている。入職当初は介護技術も含め業務全般をマンツーマンで教えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ積極的に参加している。また自主研修の案内も随時行い、参加を呼びかけている。	○	順番で職員が外部研修に参加しミーティング時に研修報告する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修参加などにより、交流する機会を持ち、情報交換する等ネットワークができています。	○	順番で職員が研修会に参加し情報交換を行い、視野を広げサービスの質の向上に努める。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間でお互いのストレスを軽減できるような言葉かけが配慮できている。休み時間には少しでも心身ともに休めるよう簡易ベッドで休んで貰う。	○	勤務表はできるだけ希望に沿うように作成している。又、連休を組み入れリフレッシュ出来る様努力している。職員のストレス発生時は相談して応じている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修への派遣や資格取得のための勉強会など、積極的に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでに面談などを行い、本人の要望、不安なことを聞く機会を作り、努めている。	○	訪問調査を増やしたり、ホーム見学を多くしてもらおう働きかけていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでに面談などを行い、ご家族の要望、不安なことを聞き、機会を作り努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集や本人、家族との面談時に意向や要望に応じていくことや他のサービス利用の説明にも努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の状況によって、家族と協力しながら時間をかけて、馴染んでいただけるよう対応する。家族より馴染みの品の持ち込みも工夫していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや食器洗い等、利用者からアドバイスも頂いたりしている。おせち料理の作り方も教えていただいている。	○	本人のできる力を大切にして生き生きと輝いて生活して貰いたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に沿って、外出希望や面会をお願いし、面会時間も夜間を除き自由になっている。	○	毎月の誕生会の行事には、ご家族を招待し一緒に祝って頂く。この種の行事をもっと計画していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報提供や会議を行い、本人と家族の思いを双方の対応に活かせるように努力し、良い関係が継続できるよう心がける。ご家族が月1回お茶会を開いて下さり、利用者、職員共、和みの時間となっている。	○	手紙や電話等でも交流出来る様支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人とのかかわりを大切にし、なじみの品物を居室に持参されるなどご家族には大変協力していただいている。又、家族の協力を得て墓参りに行かれたり、線香あげに自宅に戻られる方もおられる。	○	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食堂テーブル配置などに気を配り、利用者同士ができることをできない方にしてあげたり、支えあう姿勢を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了し、同法人内の施設に移動された利用者の家族の方には、合同のイベント等での交流を交えて接している。季節度に便りをやり取りして関わりを大切にしている。近くに來られた際、立ち寄られるご家族を歓迎している。	○	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望、意向を伺い、相談しながら把握し、努めている。又、季節の変わり目による心境の変化等常に把握出来る様努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集、家族に聞き取りを行い、アセスメント様式に記入し、ケアプラン活用に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方、日常の主な行動を把握し、努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向、現状の課題を踏まえ話し合い、アセスメントを行っている、事前にミニカンファレンス開催し職員の意見も反映し、具体的な介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示し、期間終了前に職員会議で話し合い、点検・確認・追加・見直しを行い、ミーティングで決定された内容が変更した事を1つ1つ確認しチームで統一している。状態変化、新たな課題・問題発生時には、随時見直しを行い、新たな計画を作成している。	○	ご家族と面会時、意見交換したり現状の変化があった場合はその都度対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービスのプランに組み入れて介護記録をとり、全職員が情報を共有する。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の介護老人保健施設や併設のグループホームの合同行事にも多く参加し、外出の機会を多く支援している。	○	各種行事には、たくさんの家族が参加される。行事に合わせて遠方よりの帰省、日程を調整される家族もおられる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	介護相談員の訪問もあり、交流があり、利用者の方も来所を楽しみにされている。	○	地域と広く深く交わる機会を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	病院受診の際、介護タクシーを利用される方もおられる。訪問歯科、訪問美容師等も受け入れている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などには参加してもらっているが、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなどについて、本人の意向がまだ無いため、特に行っていない。	○	地域包括支援センターの方々や地域の施設のケアマネジャーとの研修に参加し情報収集・交換している。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族を通じて連携を図っているが、グループホームからは情報提供をこまめに行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人に合わせた言葉かけや分かりやすい説明、対応を行っている。記録物は人目につかない事務室に保管されている。	○	今後もプライバシー確保の徹底に努める。また個人情報も外部に触れないよう保管する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の訴えを十分に聞くように心がけている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	音楽療法に参加したくない時など、無理強いしないよう本人のペースに合わせた支援をしている。食事は全員揃って食べて頂く様にしているが本人の体調、希望によって遅らせる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回のカットや毛染をされ、大変若くなったと喜ばれる方もおられる。訪問美容師の来所を楽しみにされており、髪の長さ、スタイルは本人の希望通りにしてもらえる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り買い物、調理を一緒に行っている。また献立には利用者の好みを反映し、共に配膳、下膳、後片付けや洗い物もしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事の好みについては、情報収集した好みの物を本人の状態に合わせ、日常的に楽しめるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	基本的には時間を見てトイレ誘導を行っているが、夜間帯は紙パンツやパットを使用される方もおられる。掻痒感のある方は紙パンツから綿パンツに変更し少しでも通気性を良くし気持ちよく排泄出来る様日中は取り組んでいる。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日沸かし、毎日入浴が基本である。また、湯加減、入浴時間帯など本人の希望に合わせて支援している。毎日の入浴の順番を変え1人1人不満のない様実施している。	○	入浴できない時は、清拭、足浴、ドライシャンプー等に対応、清潔を保つようにしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	散歩やリハビリ体操などを行っているが、夜間不眠がある方もおられるためホットミルクを差し上げ話し相手になる等、利用者の状態把握に努め、少しでも良眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる範囲で洗濯物干しやたたみ、ホーム内の花壇の花植え、草取り、調理、盛り付けなどしていただいている。又、近隣の散歩等も時間を決めず行きたい時一緒に付添い気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方には、ご家族の許可の下、利用者本人にしていただいている。近くの店で買い物時には自分の財布から支払われる。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月1回のペースでレクリエーション日を設定し、外出の機会を設けている。希望に合わせて個別での外出も行っている。	○	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	できるだけ希望に沿って外出支援をレクリエーション日を利用して設定している。家族とも協力して機会を作りたい。	○	ご家族の協力を得て自宅帰宅や夫の入所先、買い物、自由に週2回の外出の機会を作り実施している方もいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節ごとに葉書を職員支援の下作成され、家族に大変喜ばれている。	○	家族からの返事を利用者自身も喜んで葉書を大切にされるため、今後も取り組みたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設定されていない。家族や友人の方と食堂ホールや居室でゆっくりと一緒にお茶を飲みながら過ごされている。	○	利用者の方がとても楽しみにされている為もっと面会回数を増やして頂ける様働きかける。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対に行わないという認識を全職員が持っている。また転倒リスクのある方については、居室に赤外線センサーを設置し、転倒防止を行うと共に、身体拘束につながらないように取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関の鍵をかけていない。無断外出の察知は職員の方で心がけており、一緒に行動するなどして自由に過ごしていただく。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は、特に見守り、所在確認を職員同士で声かけしながら、利用者が気遣いされない程度に配慮して行う。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品によっては手の届きにくい場所へ保管したり、洗剤等はカーテンで目隠しを行ったりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練や勉強会をして取り組んでいる。	○	勉強会や訓練、研修を通して事故防止の知識を学んでいる。又、誤薬のない様薬の仕分け、服薬時は二重三重の確認行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	防災研修会など職員が参加している。
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	薬説明書のコピーを日誌に綴じ、確認を随時行なう。薬の副作用、目的を調べ明確に理解出来る様にしている。
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	排便確認の難しい利用者は、職員が意識を持ってトイレの後確認する。
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は、こまめにチェックしている。食事の量が減っておられる利用者には、ゼリーやフルーツで補足していただくなど、一人ひとりに合わせて工夫している。	○	同法人内の栄養士に定期的に栄養バランスやカロリーについて助言をしてもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対するマニュアルがあり、それに沿って対処している。除菌の日を週2回設けて、細かい部分まで除菌している。利用者、職印共インフルエンザの予防接種をしている。消毒液、マスクも常備している。	○	外部からの感染もあるので、流行時は外出を控える等接触の機会を少なくしていく。また職員も更に手洗い、うがいを励行する。室内の温度、湿度も細めにチェックしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は長時間保管せず、1日おきに買い物に出かけ、できるだけ新鮮なうちに調理を行う。調理用具も殺菌し、乾燥に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に木や花を植えている。また一面にはねぎ、パセリも植え、料理に使用している。家族が持参された花を利用者が庭に植えられる。	○	鍵をかけないので、家族の方も自由に出入りされる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と一緒に台所で調理することもある。四季を感じてもらえる食材を多く使っている。季節感の飾りなどを利用者と共に作成し、室内に飾っている。散歩時に持ち帰られた花を食堂テーブルに飾り、楽しめる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ソファや食堂テーブル、ホール内の小テーブルに各々気の合う方同士がコーヒーを楽しまれたり、新聞を読んだり、自由に過ごされる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、ソファ、思い出の写真など、なじみのものを持ち込まれ、安心して過ごされるようになっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝掃除の時間に必ず換気を行っている。室温調整は、利用者に合わせて行い、温度調整は、温度計、湿度計を確認して行う。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりが要所に設置されている。浴室には滑り止めマットを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレドアと入口に分かりやすく表示している。利用者が失敗しても自尊心を傷つけないよう、職員が言動に気を付け、持てる力が発揮できるようにしている。	○	利用者個々ができる事とできない事をしっかりとらえ、統一したケアをするように努めている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	併設しているグループホームとの共用の中庭には、芝生があり、ベンチを置き散歩時など、くつろぐスペースとして確保している。時々芝生上でテーブルや椅子を並べ、お茶や食事を楽しむ。	○	今後も共に歌を唄う等、中庭で出来る様な活動を多く行っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/> ③たまにある
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 結婚退職した職員が子供を連れて気軽に遊びに来れるような温かい雰囲気があり、利用者の方々も大変喜ばれる。
- 併設のグループホームや同法人の老人保健施設と合同行事があり、家族、利用者共に多く参加していただき、楽しめる。
- 利用者の方々笑顔が多く、とても活動的であり、月1回のレクリエーションである外出は、職員と共にとっても楽しめる。
- 利用者と職員と一緒に料理を作ったり、除草作業をしたり、共に助け合い支え合う信頼関係がある。
- 月1回のご家族が催されるお茶会では、利用者、職員共、心が癒され、大変落ち着く場を提供して頂いている。